議　事　録　要　旨

会 議 名 称	令和８年度　第３回加古川市総合計画審議会（第２部会）
開 催 日 時	令和８年９月17日（木）午後２時から午後４時まで
開 催 場 所	ＳＨＯＷＡグループ市民会館　大会議室
出　席　者	＜総合計画審議会委員＞ 部会長　　安枝　英俊 副部会長　大辻　利紀 委員　　池澤　加代子、富木　茂樹、新納　麻理栄、守家　和子、 吉村　達郎 ＜加古川市＞ 企画部次長　　依藤　康弘 都市計画部次長　衣笠　圭一 産業経済部次長　工藤　順也 環境部次長　　福浦　正浩 上下水道局次長　小川　英昭
会 議 次 第	１　開　会 ２　議　事 （１）前回までの意見の整理について （２）その他 ３　閉　会
配 付 資 料	１　次第 ２　【資料１－１】意見の整理（基本目標３） ３　【資料１－２】意見の整理（基本目標４） ４　【資料１－３】意見の整理（基本目標５） ５　【資料２】参考資料（現総合計画抜粋）
傍聴者の数	４人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
	1　開　会 （委員の出席状況） 第２部会委員９名中７名の委員が出席していることを報告 2　議　事 （１）前回までの意見の整理について 基本目標３　活力とにぎわいのあるまち
（事務局）	〈事務局説明〉 （質疑応答）
（委員）	【農業・商業の振興と人口減少対策について】 ・農業従事者の平均年齢が 75 歳程度となっており、農業のブランド化を進めるうえでも非常に厳しい状況にある。今後は、高校や大学、企業なども含めて、地域全体で取り組む仕組みを市が中心となって構築していくことが重要ではないか。 ・農業の担い手不足については、資金面だけでなく、体力的な負担も課題となっているため、地元の若い世代を取り込む方法についても検討していく必要がある。 ・食料自給率が低下する中、観光協会などの関係団体も含め、市を中心に地域が一体となって取り組める仕組みを構築し、今後の具体的な方向性を検討してほしい。 ・商業については、空き店舗に対する補助制度はあるものの、出店後も継続して事業を続けてもらえるような仕組みを、さらに充実させる必要があるのではないか。 ・今後、県の財政状況が厳しくなることも想定される中、市がどのような役割を担っていくのかが重要になる。 ・交通利便性や住みやすさといった強みを生かし、人口減少を食い止めるための積極的な取組が必要である。 ・今後 4、5 年で社会情勢は大きく変化すると思われることから、将来を見据え、具体的な活動を進めていく必要がある。 基本目標４　快適なまち
（事務局）	〈事務局説明〉 （質疑応答） 【コミュニティバスの待合環境と商業施設との連携について】

（委員）	・資料「意見の整理」の No.15 の待合環境の整備について、コミュニティバスのバス停周辺にあるスーパー等の商業施設と連携し、クールスポットや待合場所、自転車置き場として利用できるようにするなど、商業施設との連携についても「主要意見」に反映してもらえると、発言の意図に合致すると思う。
（事務局）	・「待合環境」を広く捉えていた。周辺施設との連携を踏まえ、当該部分について、より具体的な内容となるよう修正する。
（委員）	【空き家の適正管理について】 ・空き家の適正管理について、行政が危険な空き家として判断するための基本的な目安はあるのか。 ・環境の変化も大きく、豪雨等による水害など、地域ごとに異なる課題も生じている。国が一律に基準を定めることは難しいため、地域の実情を踏まえ、地域で考えていく必要がある。
（事務局）	・一般的には国や県などの基準に準じているが、国の基準は、我々が一般的に想定するよりも相当厳しく、かなり危険な状態にならなければ対象とならない。空き家を減らしていくためには、市独自の基準についての検討も必要となってくるかもしれない。 ・国において相続登記の義務化が始まっていることも踏まえ、市としても、相続時に家族間で今後の管理や所有関係について話し合うよう啓発し、所有者の明確化や適正な管理につなげていくことが重要であると考えている。
	<u>基本目標５　うるおいのあるまち</u>
（事務局）	〈事務局説明〉
	（質疑応答）
（委員）	【プラスチックごみについて】 ・資料「意見の整理」の No.3 については、「プラスチックごみの削減」ではなく、「レジ袋等のプラスチック製品を使用しない方向を意識する」という趣旨で発言した。
（事務局）	・レジ袋等のプラスチック製品の使用については、「地球環境の保全」の項目において、環境に配慮した行動の啓発や情報発信に関連する項目だと認識している。ご意見の趣旨を踏まえ事務局案を修正する。

	【ウェルピーポイントについて】
（委員）	・対象となる活動が分かりにくく、加古川市内で行われるすべての活動が対象となっているわけではないことが課題である。市のためになる活動に対してウェルピーポイントが付与される仕組みであれば、より参加しやすくなるのではないかと思う。
（委員）	・ウェルピーポイントについては、昨今の地域における担い手不足という課題にも効果的だと考えている。自分の好きなテーマやタイミングで地域に貢献できる機会を設けるという考え方は今後の地域社会において重要な視点だと思う。
（事務局）	・P5「地域コミュニティとこれからの支えあい」については、第2章「策定の背景」における課題認識として記載しており、最後に「それぞれのかたちで地域と関わり続けることのできる環境づくりが重要」としている。今後の地域活動については、無理のない時間や方法で継続的に参加できる環境を整え、市民主体の参画につなげていくことが重要と考えている。その中で、ウェルピーポイントについても、単に地域活動への参加を促すだけでなく、個人が自分の好きなテーマやタイミングで地域に関わるきっかけをつくることで、地域の担い手不足への対応にもつながるものと考えている。今回いただいたご意見は、今後のウェルピーポイントの活用を考えるうえでも重要な視点と捉えており、活用の幅を広げながら、地域への継続的な参画につなげていきたい。
	【公園の整備について】
（委員）	・資料「意見の整理」のNo.15番の公園の整備について、公園が数多くあり人口も減っていく中で、新たに公園を整備することについてかかる費用や労力、時間に対して、どの程度の効果が得られるのかを考えているのか。整備費だけでなく、目に見えにくい清掃等の維持管理費も含め、今後、適切に整備・維持していけるのか。 ・公園の維持管理は基本地域住民という考え方から、公園を気に入った人が整備をする公園ボランティア制度というものを参考にしてはどうか。また、こうした活動にウェルピーポイントを活用することも考えられる。 ・小規模な公園については、公園ごとに役割を分け、それぞれの目的に応じて利用しやすくする取組も始まっている。こうした公園の役割分担は、利用者のニーズに応えるだけでなく、維持管理等のコスト抑制にもつながるため、重要だと思う。
（事務局）	・公園整備については新設だけでなく、既存の公園の維持管理についても考えていく必要がある。小規模な公園については、半径250メートル圏域に整備するという考え方があり、状況に応じて廃止することも含め、今回いただいた問題意識を踏まえて今後の整備・維持管理を進めていきたい。

（部会長）	・これまでの意見については、総括部会で説明していきたいと思う。特に、獣害や農業の担い手に関する意見が多くあったほか、駅前のあり方については、単ににぎわいを創出するだけでよいのかという意見、店舗への補助制度については、地域に定着するための仕組みを検討してほしいという意見、調整区域のまちづくりについても考えていく必要があるという意見があった。また、熱中症対策やウェルピーポイントについての意見も印象に残っており、これらを中心に総括部会で伝えていきたいと思う。 （２）その他 〈事務局説明〉 （質疑なし） ３　閉会